

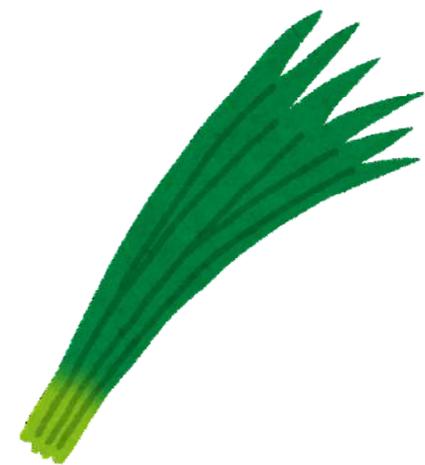


黒土を使った生ごみ処理器の使い方 (キエー口)

黒土を使って生ごみを減らそう！



下田市環境対策課

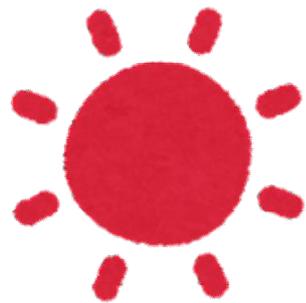


用意するもの

- 生ごみ処理器
- スコップ等
- 黒土
- 生ごみ
- 水



①置き場所を決めよう！



💡ポイント💡

陽当たりが良く、風通しが良い場所に置こう！

場所が決定したら箱の8～9割まで黒土を入れる。
土の中の温度が高い方が微生物が活発に働き
生ごみの分解が早くなります！

②穴を掘り、生ごみを入れよう！

15cm～20cmの穴を掘り、生ごみを入れよう。1回に投入する量は500g程度まで。

💡ポイント💡

生ごみを細かくしてから入れると分解が早くなります！



③生ごみと黒土をよく混ぜよう！

- スコップ等で生ごみを細かくしながら、土とよく混ぜることで土中の微生物が働き、分解しやすくなります



④水を入れ、土を被せよう！

- 水分がないと微生物は活動ができません。水を少し入れ微生物が働きやすい環境つくりをしましょう！水の目安は泥だんごが作れそうなくらい。
- 水を入れたら上に乾いた土を被せましょう！虫やにおいの発生を防ぐことができます！

夏は4日～7日程度、冬は2週間程度で分解します。

微生物の力で生ごみを処理するものですので家庭から出るごみを全て分解できるわけではありません。家庭から出る一部を減量するためにご活用ください！

よく分解するもの

傷んだ野菜、くだもの、肉、魚、食用廃油、
食べきれなかったもの(カレー、シチュー、
肉じゃがなど)、期限切れの食べ物、カビ
が生えてしまったもの など

分解に時間がかかるもの

野菜の芯、柑橘系の皮、枝豆等の皮、魚類の骨、ごぼうなど土の中でできるもの など

※細かくしてから入れることで分解しやすくなります。

分解しにくいもの

鶏や豚の骨、貝殻、卵の殻、大きな魚の骨、たけのこやたまねぎの皮、梅干しの種、とうもろこしの芯、わさびなどの殺菌作用がある食べ物など